

法政大学学術機関リポジトリ

HOSEI UNIVERSITY REPOSITORY

PDF issue: 2024-07-28

民法修正案参考書

(発行年 / Year)

1910

民法修正案參考書

法典調查會

民法

第四編 親族

(理由) 本編ハ既成民法人事編中親族關係
 及ヒ後見ニ関スル規定ニ該當又既成法典
 ハ人事編ニ於テ民法全躰ニ通スヘキ總則
 ト親族の諸關係ニノミ當ルヘキ特則トノ
 間ニ區別ヲ設ケス且公法ニ屬スヘキ規定
 ヲモ併セテ之ヲ一編中ニ收メタルヲ以テ
 或ハ人事編中ノ規定ニシテ他ノ各編ノ通
 則タルヘキモノアリ或ハ民法中ノ規定ニ
 シテ私法ニ屬セサルモノアリ公類躰裁共
 ニ其區シキヲ得タルモノニ非サルヲ以テ
 法典調査會ニ於テ之ニ修正ヲ加フルニ當

法典調査會

リ人事編ノ規定ヲ三公シ其一部ハ之ヲ民
 法中ヨリ削除シ他ノ一部ハ之ヲ民法第一
 編總則編中ニ掲ケ其他ノ部公ハ之ヲ本編
 中ニ收メタリ蓋シ人事編第二章及ヒ第十
 六章ニ於テ國民公限及ヒ身公証書ニ関ス
 ル規定ヲ掲ケタルモ是等ノ規定ハ公法ニ
 屬スヘキモノニシテ之ヲ私法タル民法中
 ニ掲クルハ其當ヲ得タルモノニ非ラス故
 ニ之ヲ國籍法、戶籍法等ノ特別法ニ讓ルコ
 トトセリ其他手續ニ関スル事項ノ如キモ
 之ヲ民事訴訟法、非訟事件手續法等ニ讓
 ルヲ至當ト認メ總テ之ヲ民法中ヨリ削除
 セリ又人事編第一章第十二章第十四章及

民法

ニ第十五章ニ掲ケタル私權ノ享有及ヒ行
使、禁治産、準禁治産及ヒ失踪ノ規定ノ如キ
ハ皆權利ノ主格カ人ニ関スル規定ニシ
テ各種ノ權利ニ共通ナルモノナルヲ以テ
之ヲ民法第一編總則編中ニ掲ケタリ

本案ニ於テハ人事編中前三章ケタルニ部
ノ除キ家族及ヒ親族ニ関スル規定ヲ纏括
シテ之ヲ民法中ノ一編ト為シ古來ノ法令、
慣習、裁判例及ヒ官廳ノ伺指令等ハ勉メテ
廣ク之ヲ参酌シ以テ既成法典ノ條規ニ必
要ナル修正ヲ加ヘタリ

本案ニ於テハ人事編中ノ法規排列ノ順序
ニ著シキ變更ヲ加ヘタリ既成法典ニ於テ

法典調査會

●ハ戸主家族ニ関スル規定ヲ人事編第一
三章ニ掲ケ之ヲ親族的諸關係及ヒ後見ニ
関スル規定ノ後ニ置キタリト雖モ我邦現
今ノ状態ハ家族制ヲ以テ社會ノ基礎ト為
スヲ以テ本編ニ於テハ既成法典ニ於ケル
戸主家族ニ関スル規定ノ位置ヲ顛倒シテ
之ヲ親族編ノ首部ニ置クコトトセリ

第一章 總則

(理由) 本章ニ於テハ親族ノ範圍及ヒ親等
ノ算定法ニ関スル規定ヲ掲ク而シテ之ヲ
親族編ノ總則トシテ本編ノ冒頭ニ置キタ
ルハ本章ノ規定ハ親族法ノ基礎ニシテ他
ノ各章ニ掲ケタル規定ニ共通ナルモノナ

ルヲ以テナリ

本章ノ規定ハ人事編第三章ニ該當ス人事編第十九條乃至二十五條ノ規定ハ一部之ヲ本章ニ採用セリト雖モ同第二十六條乃至第二十九條ハ扶養ノ義務ニ関スル規定ナルヲ以テ之ヲ以テ本章ニ掲ケ

第七百二十五條

(理由) 既成法典ニ於テハ親族及ヒ姻族ノ區別ヲ設ケ血統ノ相連結スル者ノミヲ指シテ親族ト稱セリ今我邦ノ慣習ヲ見ルニ親族ナル文字ハ必スシモ血族ノミヲ指ス

法典調査會

モノニ限ラサルカ如シ加之ナラス一々親族ト姻族トヲ區別スルハ甚々煩ハシキヲ以テ本案ニ於テハ親族ナル文字ヲ血族及ヒ姻族ニ通シテ之ヲ用キタリ又既成法典ハ親族又ハ姻族ノ關係ヲ指ス場合ニ於テ親屬又ハ姻屬ナル文字ヲ用キタルモ本案ニ於テハ親族關係又ハ姻族關係ナル文字ヲ用キタリ

法律上親族ト稱スル者ノ範圍ニ付テハ諸國ノ立法例區々ニシテ獨乙民法草案ノ如キハ親族關係ヲ無限ニ認メタリ此主義ハ實際ニ於テ甚々不便ナルカ故ニ諸國ノ立法例ニ於テハ何レモ之ニ適當ノ制限ヲ設

ケタリ西班牙民法及ヒ白耳義民法草案ニ
於テハ六親等以上ノ者ノミヲ以テ親族ト
爲シタリト雖モ佛蘭西民法ハ相續ニ関シ
テ十二親等マテノ者ヲ親族トシ又伊太利
民法ハ十親等マテノ者ヲ親族トスル主義
ヲ採レリ而シテ明律ニ於テハ四代マテノ
者ヲ親族ト爲セリ大允六親等以内ノ者ニ
當ルナラシ我邦ニ於テモ古來親等ニ依リ
テ親族ト親族ニ非サル者トヲ區別シタル
コト更ニ疑ナキ所ナリ新律綱領及ヒ刑法
ハ列舉法ヲ採リタルモ六親等以外ノ者ヲ
以テ親族ト爲サス而シテ民事訴訟法ハ刑
法ノ親屬例ニ依リテ親族ノ範圍ヲ定メタ

法典調査會

リ本案ニ於テハ從來ノ慣習ト實際ノ便利
トニ適スルモノト信シテ親族ハ六親等以
内ノ者ニ限ルモノト定メタリ
人事編第二十五條第一項ニ依リテ或民法
典ハ血族關係ト同一ノ程度ニ於テ姻族關
係ヲ認メタルカ如シ是レ實ニ我邦ノ慣習
ニ及スルモノトス現行刑法ノ如キモ實際
上三親等以下ノ姻族ヲ以テ親族ト認メス
故ニ本案ニ於テハ人事編第二十五條第一
項ヲ削除シ姻族ハ三親等以内ノ者ニ非サ
レハ親族ト爲ラサルモノト定メタリ
人事編第二十四條第一項ハ特ニ之ヲ置ク
ノ必要ナシ又同第ニ項ニ掲ケタル者ノ間

第七百二十六條

係ハ姻族 關係ニ外ナラズ然ルニ既成迄典
ハ之ヲ以テ血族 關係ニ準スルモノト爲セ
リ今此ノ如ク既成迄典ニ於テ人事篇第ニ
十四條第ニ項ニ掲ケタル者ヲ血族ニ準ス
ルモノト爲シタル所以ハ畢竟婚姻又ハ扶
養義務ノ制限等ニ関スル規定ヲ之ニ適用
スルカ爲メナラン本業ニ於テハ婚姻ノ制
限ニ関スル特別ノ規定及ヒ扶養ノ義務ニ
関シテ此等ノ者ニ適用セラル可キ特別ノ
規定ヲ設ケタルカ故ニ人事編第ニ十四條
第ニ項ハ之ヲ置クノ必要ナシ加之ナラス
同条第ニ項ニ掲ケタル者ヲ血族ニ準スル
トキハ被相續人ニ對シ血族ノ關係ヲ有ス
ル者ノ現ニ存スルニ拘ラス之ト血族ノ関
係ナキ者カ相續權ヲ取得スル結果ヲ生ス
ルコトナキニ非サルカ故ニ人事編第ニ十
四條ハ全部之ヲ削除セリ

法典調查會

(理由) 本條ハ親等ノ算定法ヲ定メタルモ
ノニシテ人事編第ニ十條第ニ項及ヒ第ニ
十一條ト其主意ヲ同フス抑親等ヲ定ムル
ニ二種ノ主義アリ其一ハ之ニ依リテ親族
間ニ於ケル尊卑ノ階級ヲ定ムルモノニシ
テ他ノ一ハ之ニ依リテ血統ノ親疎ヲ示ス
モノナリ本業ニ於テハ血統ノ親疎ヲ以テ

親等ノ計算法ノ基礎ト為スヲ以テ最モ自然ニ適スルモノトシテ第ニノ主眼ヲ採用セリ

人事編第二十條第ニ項ハ親等ニ直系ト傍系トノ二種アルコトヲ示シ同第ニ項ハ直系ノ親族ニ尊屬親ト卑屬親トアルコトヲ示シタルモノナリ然レトモ是等ノ諸關係ハ特ニ法文ヲ待テ後ニ之ヲ知ルモノニ非サルヲ以テ之ヲ削除セリ

第七百二十七條

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十二條本文ノ規定ヲ採用シタルモノニシテ從來ノ

法典調査會

慣習ト全ク符合スルモノトス今本條ノ規定ヲ以テ養子縁組ノ效力ニ関スル規定ト為ストキハ養子ト題スル第ニ章第ニ節中ニ掲クルヲ至當トスヘキモ本條ノ規定タルヤ素ト養子縁組ヨリ生スル親族關係ノ性質ヲ定メタルモノナルヲ以テ之ヲ本章中ニ掲ケタリ

人事編第二十二條但書ニハ養子トハ男女ヲ總稱ストアルモ單ニ養子ト言ハハ男女ヲ含々ハ當然ナルヲ以テ特ニ之ヲ明言スルノ必要ヲ觀ス

第七百二十八條

第七百二十九條

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十三條ノ規定ヲ採用セルモノニシテ只其主意ヲ明ニシタルノミ本條ニ於テハ庶子ヲ認メタルカ故ニ嫡母ト庶子トノ關係ヲ規定スルノ必要アリ而シテ配偶者ノ一方ト其実子トノ間ニハ親子ノ關係アルヲ以テ其子ト配偶者ノ他ノ一方トノ間ニ於テモ亦親子ノ間ニ於ケルト同一ノ親族關係ヲ生スルモノト為スノ必要アラン

(理由) 本條ノ規定ハ人事編第二十五條第二項ト其主意ヲ同フス同條ニ於ケル婚姻

法典調查會

無効ノ判決ナル文字ヲ削除シタルハ婚姻ノ無効ナルトキハ初ヨリ姻族關係ノ成生セサルヲ以テナリ外國ノ立法例ニ於テハ婚姻ノ解消ハ姻族關係ノ消滅ヲ来ササルモノト為スモノアリ獨乙民法草案ノ如キハ本則トシテ此主義ヲ採レリ又伊太利民法ハ配偶者ノ一方ノ死亡シタルカ為メ婚姻ノ解消ヲ来シタル場合ニ於テハ例外トシテ姻族關係ノ消滅ヲ来ササルモノト為セリ我邦ノ慣習ニ依レハ姻族關係ハ婚姻ノ解消ニ依リテ止ムモノナリト雖モ夫婦ノ一方ノ死亡シタル場合ニ於テハ生存配偶者カ其家ヲ去リタルトキニミ姻族關係

係ノ消滅ヲ来スモノトス本條ハ即チ此慣
習ヲ採用シタルモノニ外ナラサルナリ而
シテ前條ノ親族關係ハ親ノ婚姻ニ依リテ
生スルモノナリカ故ニ其離婚ニ依リテ消
滅スルニ至ルモノトスルハ至當ナリト謂
フ可シ

第七百三十條

(理由) 本條第七百二十七條ニ於テハ養子
縁組ニ依リ養子ト養親及ヒ其血族トノ間
ニ親族關係ヲ生スル旨ヲ規定シ且ツ前條
ニ於テハ姻族關係ノ消滅スル場合ヲ規定
セルカ故ニ本條第一項ノ規定ヲ置キ養子

法典調査會

縁組ニ依リテ生シタル親族關係ハ誰縁ニ
依リテ消滅スルコトヲ明ニスルヲ可トス
而シテ他家ヨリ入りタル養親カ誰縁又ハ
離婚ニ依リテ養家ヲ去ル場合往々之アル
カ故ニ亦第一項ヲ置キ他家ヨリ入りタル
養親カ養家ヲ去リタリトキハ其者及ヒ其
實家ノ血族ト養子トノ親族關係ハ之ニ依
リテ止ムコトヲ規定スルノ必要アルハシ
之ヲ要スルニ第一項ハ養子カ誰縁ニ依リ
テ養家ヲ去リタル場合ヲ規定シ第二項ハ
養親カ養家ヲ去リタル場合ヲ規定セルモ
ナリ而シテ第三項ノ規定ハ家ノ觀念ニ
基キタルモノニシテ前二項ノ規定ト同シ

ク之ヲ置クノ必要アルハ勿論ナラン
第七百三十一條

(理由) 本條ノ規定ハ我邦ノ家族制度ニ照シテ之ヲ置クノ必要アルヲ知ル可シ然シ生存配偶者ヲ本家相續分家又ハ廢絶家再興ノ為メ其家ヲ去リタルトキハ其生存配偶者ハ依然其家ニ在ルト之ヲ同一視マサル可カララス又他家ヨリ入りタル養親カ同一ノ原因ニ依リテ養家ヲ去リタルトキハ離縁又ハ離婚ニ依リテ養家ヲ去リタル場合ト異ナリ依然養家ニ在ルト殆ト同一ナルカ故ニ第七百二十九條第ニ項及ヒ前條

法典調査會

第ニ項ノ規定ハ全ク此等ノ場合ニ適用スヘカラサルナリ